

図書館だより No. 3

平成 24 年 6 月 22 日発行

いよいよ関東地方も梅雨入りしました。気温も上がり、蒸しているこの時期は過ごしやすいいとはいえませんが、気分が沈んだまま過ごすのはもったいないですね。雨でも楽しめる施設へ出かけたり、家の中で出来ることを楽しんでみたり、雨の日も充実した時間を過ごしましょう。

また、雨の寺社などは晴れた日とはまた違う趣があって、洪く楽しむのにオススメです。この時期は紫陽花が綺麗な寺社も多いです。最近、気になっているのは国宝に指定された熊谷市の歓喜院聖天堂です。聖天堂は日光東照宮を彷彿させる本格的装飾建築で、その精巧さゆえに「埼玉日光」と称されています。平成15年から7年の歳月をかけた保存修復工事によって、鮮やかな色彩を取り戻した彫刻の数々は、ぜひ一度見に行ってみたいなと思うところです。

ちなみにこの辺りは聖天寿司という稲荷寿司が名物なのだそうです。見物がてら、そちらの味も試してみたいですね。

青空が恋しくなった日には*

748-へ 『青空サプリ』 Beretta P-09 || 著 雷鳥社

雨が続いて、青空が恋しくなったら、この本を開いてみましょう。大勢のフォトグラファーの写真が楽しめるだけでなく、たくさん名言にも出会える本です。心が曇っている時に開くと、モヤモヤが晴れていくのを感じられると思います。

写真集だけど、コンパクトな大きさなので、手に持って読みやすいというのも嬉しいポイントです。電車やバスの待ち時間に読むのにもおすすめ。みなさんはどの青空を好きになるでしょうか。

国宝のビフォー&アフター*

709-コ 『日本の国宝、最初はこんな色だった』 小林 泰三 || 著 光文社

みなさんも日本のどこかで目にしたことがあるだろう国宝の数々。何百年の時を経て、私たちが目にしている国宝からは歴史の重みや荘厳さが感じられます。

その国宝が最初はどんな色をしていたのかと、みなさんは想像を膨らませてみたことはありますか。この本では、学術的な根拠に基づいて仏像や絵巻がデジタル復元されていくのですが、「こんな色だったのか！」と何度も写真を見比べてしまうおもしろさがあります。今も残された色を味わうだけでなく、“復元した美術を味わい尽くす”という楽しみ方を教えてくれる本です。



夏の長期貸出、始めました

図書館では、昨日から夏の長期貸出を始めました。返却日は9月5日(水)で、1人5冊まで借りることができます。この長い期間を利用して、たくさん本を読んでください。みなさんはもう「夏休みになったら、この本を読んでみよう!!」と狙っている本はありますか。狙っている本が既にある人はさっそく借りてみてください。また、これから夏に向けて本を探すという人は、これから発行する先生方のおすすめ本が載った「2012夏が好き!本が好き!!」を読みながら、本を決めてもいいかなと思います。発行されるのを楽しみにしててください。

新聞紙でエコバッグ作り

図書館では昨年も好評だった新聞紙を使ったエコバッグ作りのコーナーを開設しています。参考にしているのは坂上政子さんの『新聞エコバッグの作り方』(小学館)です。

昨年の様子を見てみると、初めはみんな、うまく折れずに苦戦していましたが、1度コツを掴むと後は楽しくスムーズに完成させることができていました。

「でも、新聞紙のバッグなんて、おしゃれじゃないなあ…」と思う人もいかもしれませんが、このエコバッグは侮れません!!本には様々な大きさや形のバッグの作り方が載っていますし、新聞は英字新聞を用意しています。仕上げに、色とりどりのマスキングテープを貼り付ければ、おしゃれでかわいいエコバッグが完成します。さらに、今年はバージョンアップして切り紙でいろいろな模様も用意しました。みんなでワイワイ楽しみながら、エコバッグを作ってみてください。完成したバッグはそのまま持ち帰れますので、マイバッグとして活用してもらいたいと思います。

制作コーナーは常時、開設しているので、「作ってみたい!」と思ったときに、いつでも図書館へやって来てください。もちろん、苦戦している人のお手伝いもしますので、困った時には司書に声をかけてください。一緒に頑張りましょう!!



本の延滞をしていませんか

6月上旬に図書館より本の延滞をしている人に督促状を出しました。中には、年度を越えて延滞している人もいます。督促状が手元に届いている人は、至急返却に来てください。図書館の本は、個人のものではないということを再認識し、お互いに気持ちよく図書館を利用できるように返却日はきちんと守りましょう。



1冊の本から繋げよう



今月の1冊は…

今月は2012年本屋大賞を受賞した三浦しをんにスポットを当てました。三浦さんといえば、『舟を編む』の他にも、2006年には『まほろ駅前多田便利軒』が直木賞を受賞しています。その後、『まほろ駅前多田便利軒』は瑛太と松田龍平が主演で2011年に映画化され、話題となりました。今回の「舟を編む」も映像化が期待されています。今月の1冊に選んだのは『風が強く吹いている』です。ここから、どんな本が繋がっていくでしょうか。

913.6-ミ 『風が強く吹いている』 三浦しをん || 著 新潮社

寛政大学に通う学生が下宿する「竹青荘」は文化財並みに年季の入った木造アパート。双子の新入生ジョータ・ジョージを迎え、九人の下宿人が集まると、竹青荘の主婦兼リーダーのハイジはやたらと「あと1人…」とつぶやき始める。一体、何が「あと一人」なのかと住人たちが首をかしげる中、ハイジは最高の一人と出会う。その“一人”となったのは、陸上界の有名人 蔵原走^{かぶる}だった。

十人の住人が集まるとハイジは皆を集めて、こう言った。『十人の力を合わせて、スポーツで頂点を取る』そのスポーツとは…、なんと箱根駅伝だった！！素人を寄せ集めたようなチームで箱根駅伝の頂点を取る、それはあまりに無謀すぎると誰もが悲鳴をあげた。しかし、それもつかの間の出来事、ある者は田舎の両親を喜ばすため、ある者は就職のため、ある者はハイジに頭が上がらないため、走ることを決意する。

悩み、ぶつかり合いながら、一歩ずつ箱根の舞台へと進んでいく彼らの姿を見ていると、無性に走り出したいくなります。そして、ところどころで発せられる住人たちの名言にも注目です。



『風が強く吹いている』キーワード1

“駅伝” ～箱根の山は天下の剣！！～

B913.6-ト 『チーム』 堂上瞬一 || 著 実業之日本社

箱根駅伝で走っている学連選抜というチーム。彼らは自分のチームでもない、チームで走るという葛藤を抱えながら、箱根を走る。浦大地は、一年前に自分の大学のチームで箱根駅伝に出場し、十区を任せられるも失速し、シード権を逃すという苦い過去を持っていた。そして、その過去に縛られたまま、4年生の箱根を学連選抜のチームとして走るようになった。自分のためだけに走る者、端から自らを戦力外とみなす者など、曲者ばかりのチームメイトに戸惑いながらも、浦は優勝を目標に掲げる。それによって心が一つになることはなかったが、走りながら、十区で待つ浦へ一位で襷を繋ぎたいという想いが彼らの心が生まれていく。来年の箱根駅伝では学連選抜を応援したいくなります。



『風が強く吹いている』キーワード2

“アパートの住人たち” ～今日もアパートは賑やかです～

913.6-ア 『てふてふ荘にようこそ』 乾ルカ || 著

就職が決まらずフリーター生活を送っていた高橋真一が見つけた格安のアパート“てふてふ荘”。感じのよい大家さんに迎えられ、いざ部屋を決めようという段階で「高橋さんはこの中でどれがいいですか？」と大家さんが取り出したのは部屋の写真ではなく、老若男女が写った写真だった。

訳がわからないまま、ボブヘアの大学生くらいの女の子が写った写真を選んだ高橋は、引っ越した翌日にその真相を知ることになる。なんと、写真の女の子は高橋の住む一号室の地縛霊だった！てふてふ荘の家賃が安いのは各部屋に地縛霊がおり、その地縛霊との同居が条件にあったからなのだ。そんな条件の下、てふてふ荘に暮らす住人たちは一体、地縛霊たちとどんな生活を送っているのだろうか。各部屋で起こるドラマ、そして、大家さんの秘密に思わずウルッときます。



そして、

三浦しをん作品を「もっと読んでみたい！！」と思った人には

913.6-ミ 『まほろ駅前 番外地』 三浦しをん || 著 新潮社

『まほろ駅前多田便利軒』の続編。まほろ駅前では便利屋を営む多田と、そこに居候する高校時代の同級生である行天^{ぎょうてん}。厄介者だけど、どこか憎めないそんな行天とすっかりコンビとなって働くようになった多田は、相変わらず行天に振り回されながら、まほろ市民からの依頼を受け、働きまわっていた。毎回毎回、とんだハプニングに巻き込まれてしまうふたりだけれど、今度はどこでどんなハプニングが待っているのでしょうか。

今回の『番外地』では、前作で登場した依頼主たちが再び登場します！！その依頼主たちが主人公となったストーリーも組み込まれているので、『まほろ駅前多田便利軒』を読んでいる人は懐かしい人たちと再会した時のような嬉しさを感じながら物語を楽しめます。